

## 第5回文教厚生常任委員会会議録

令和6年4月18日

### ○事 件

所管課報告事項

- (1) 医師確保について（八雲総合病院）
- (2) 損害賠償案件について（八雲総合病院）
- (3) 新一年生の児童生徒数について（学校教育課）

協議事項

- (1) 常任委員会の視察調査について

### ○出席委員（8名）

委員長 赤 井 睦 美 君  
倉 地 清 子 君  
関 口 正 博 君  
大久保 建 一 君

副委員長 佐 藤 智 子 君  
齋 藤 實 君  
能登谷 正 人 君  
黒 島 竹 満 君

### ○欠席委員（0名）

### ○出席委員外議員（1名）

宮 本 雅 晴 君

### ○出席説明員（8名）

総合病院事務長 竹 内 伸 大 君  
総合病院地域医療連携課長 佐々木 裕 一 君  
経理係長 馬 場 未 都 君  
学校教育課長 三 坂 亮 司 君

総合病院庶務課長 長谷川 信 義 君  
総合病院医事課長 加 藤 貴 久 君  
教育長 土 井 寿 彦 君  
学校教育課参事 池 田 忠 寛 君

### ○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君

庶務係長 菊 地 恵梨花 君

[ 開会 午前 11 時 44 分 ]

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（赤井睦美君） それでは、第 5 回文教厚生常任委員会をはじめます。

◎ 所管課報告事項

【八雲総合病院職員入室】

○委員長（赤井睦美君） 総合病院より医師確保についてよろしくお願ひいたします。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 報告事項に入ります前に、本年 4 月一日付人事異動の職員紹介をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

(～ 人事異動挨拶 ～)

○総合病院事務長（竹内伸大君） それでは引き続き、一点目の医師確保についてご報告申し上げます。本日のご報告は、常勤医師 1 名の採用及び 1 名の内定であります。

はじめに、4 月 1 日付け、内科常勤医師 1 名の採用であります。医師のプロフィールであります。齊藤圭介医師、年齢は 34 歳であります。出身大学は、信州大学であり、主な資格はリウマチ専門医、総合内科専門医であり、広く内科全般の診療をご担当いただきます。

次に、泌尿器科常勤医師の内定について報告いたします。医師のプロフィールであります。仲山明宏医師、年齢は 51 歳であります。出身大学は、北海道大学、当院採用日は 6 月 1 日としております。当院泌尿器科常勤医師につきましても、平成 21 年 3 月末をもって常勤医師不在となり、現在では週 2 日の外来診療のため非常勤医師を札幌医科大学から招聘いただいております。

仲山医師の採用によりまして、泌尿器科関連の手術、入院受入が可能となり、外来診療日の増設も見込まれますことから、医療提供体制の充実に加え、収益の確保に大変期待しているところでございます。なお、長らく泌尿器科関連手術を行っていなかったことから、手術関連機材が著しく不足していること、また、外来診療関連機材も故障時のメンテナンスが困難なほど老朽化が著しいことから、後日の町議会におきまして、医療機器整備関連の補正予算を上程する準備を行っておりますので、上程の際は、委員各位のご理解をお願い申し上げます。

また、大学医局関連、常勤医師の定期人事異動につきましても、整形外科が 1 名増員、そのほか外科、産婦人科、小児科、精神科につきましても医師の異動はありましたが、医師数は前年度同様に確保されております。

時間の関係上お一人お一人のプロフィールにつきましても割愛いたします。町広報 5 月号におきまして新任医師について掲載されますので、お読み取り願います。医師確保に関する報告は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○委員長（赤井睦美君） このことについて、質問や意見はありませんか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） その泌尿器科の先生が来てくださるといのはすごく有り難いことと思いますが、21年から機材というのは使っていないってことなんですもんね。大分古いから、来た医師の見立てで機材をやっていくってことですか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） まず手術部屋のほとんど、外来の診療だけしかできない体制の中で医師招聘しているので、泌尿器の手術に関する機材はほとんどない状況です。

それと外来については、内視鏡のシステムはございますが、病院の経営状況もあり、現在相当我慢して使っている状況です。実情としてはもう交換部品がないような状況でございまして、故障時に整備という考え方で予算上は整理しています。ただ、常勤医師が着任することによって、外来での検査に加えて、入院での検査やいろいろな入院や手術に繋がる検査もできてくるようになるので、もうそろそろ外来の機材も限界化しているので、一部軽微な備品等は交換していますが、この常勤医師の着任によって一定の整備を改めてしたいなと考えています。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） じゃあ常勤になりましたら、週2回から増えたりとかもあるんですか。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（赤井睦美君） 事務長。

○総合病院事務長（竹内伸大君） 現在、木曜日と金曜日の午前午後に札幌医科大学からそれぞれ医師を招聘して行っています。現在まだ最終的な診療体制は固まっていますが、いろいろな打ち合わせの中では月曜日から金曜日まで、なるべく外来を全部開けていくような方向で考えています。

ただ手術の設定の曜日や、まだ煮詰まってない部分もございまして、そういうところによっては、一部予約のみや、そういったことになってはいますが、仲山医師といろいろとお話をしている中では、なるべく外来の間口を広げて地域の診療ニーズに応えたいということはおっしゃっていただいています。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

なければ次、医療賠償案件についてよろしくお願いたします。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 委員長、総合病院庶務課長。

○委員長（赤井睦美君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 医療賠償案件について説明いたします。

当院では現在、医療訴訟1件を抱えており、現状につきまして報告させていただきます。

裁判、係争中でありまして、詳細を申し上げることはできませんが、本医療訴訟は、平成29年10月27日付けで、八雲町に対して損害賠償を求める届出が函館地方裁判所に届出された案件で、平成26年1月に、町外に在住の当時53歳の女性が、脳静脈洞血栓症を発症し、その後、半身不随、失語症となったものであります。

平成 29 年 12 月に開かれた第 1 回口頭弁論以降、おおよそ 2 か月に 1 度のペースで、口頭弁論、その後、弁論準備手続きが行われ、双方、準備書面、証拠説明、医学意見書等を提出した中で、争われてきたところであります。これまでコロナ禍の状況が数年続いたこと、また、過去に同様の判例はなく、専門的な医学的知見が求められる非常に難しい案件であることから、長い年月を要しておりましたが、このほど、来月の 5 月 8 日に判決が言い渡される予定となっております。

今後の対応につきましては、仮に判決で、こちら側の主張が認められない内容のものとなった場合には、控訴することも十分に想定しており、また、逆の場合は、原告側が控訴してくる可能性も十分に考えられます。

いずれにいたしましても、弁護団の見解に一任する他ありませんが、まずは判決を待ち、その後の方針・対策も含め、改めてその結果を報告させていただきたく存じますので、よろしくお願ひいたします。

以上で、医療賠償案件についての説明といたします。よろしくお願ひいたします。

○委員長（赤井睦美君） このことについては、弁護士さんにお任せしているってことでよろしいですね。

（「はい」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） 以上で終わります。

【八雲総合病院職員退室】

【学校教育課職員入室】

○委員長（赤井睦美君） 大変お待たせして申し訳ありません。

それでは、新一年生の児童生徒数についてよろしくお願ひいたします。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） 説明に入る前に学校教育課より新しい参事が着任いたしましたので自己紹介させていただきます。

（～ 人事異動挨拶 ～）

○学校教育課長（三坂亮司君） それでは座ったまま説明させていただきます。

新一年生の児童生徒数についてということで資料 1 ページお開きいただきたいと思ひます。近年、児童生徒数の減少により、学校の学級構成に変化が生じてきている状況にあります。皆さまご承知のとおり、八雲町の人口は 2030 年に約 1 万 2,000 名と予想されております。児童生徒数についても、15 年前の 2009 年、平成 21 年度になります。合計で 1,488 名でありましたが、5 年前の 2019 年、令和元年度は、1,087 名、本年度、令和 6 年度は 870 名という状況にあります。15 年前と比較して 600 名強、5 年前との比較では 220 名程度が減少しております。

資料 2 は、令和 5 年度から令和 11 年までの新入学児童生徒数の推移を記載しておりますが、小学校の入学者数を見ていただいても分かるのとおり、今後も減少が続くことが読み取れます。こうした状況により、現在、学校の学級構成に変化が起きており、たとえば今年度から熊石小学校が全学年で複式学級となり、普通学級 3 クラス、特別支援学級 1 クラスでの体

制となっております。複式学級となるのは、小学校では2学年あわせて16人以下、中学校では2学年あわせて8人以下となった場合に、複式で学級編成を行います。ただし、小学校1年生とあわせる場合は、中学校と同様に8人以下とされています。

今後の見通しですが、入学者数の推移から、落部小学校で令和7年度から小学校2年生3年生が複式学級、令和9年度からは2・3年と4・5年が複式学級になることが想定されています。また、熊石中学校は令和10年度から複式学級となることが想定され、中学校の複式学級は、配置される教員数から、教員も生徒にも負担がかかることが想定されております。

今後、中学校区のコミュニティスクールの学校運営協議会などにおいて、お知らせしていきたいと考えており、まずは議会に報告させていただきましたので、よろしく願いいたします。以上です。

○委員長（赤井睦美君） このことについて質問や意見はございませんか。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） ちょっと衝撃な数なんですけど、今現在というのはこれからというか、統廃合とかの計画ってどうなりましたっけ。ちょっと教えてください。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） 統廃合の計画については、特に八雲町では適正配置計画だとかを設けていないので、地域等の声がない限りは検討しないって状況となっております。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） 町側からは働きかけないでいくってことなんですか。

○教育長（土井寿彦君） 私のほうから。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） 市くらいになると廃止計画を立てて、そしてご議論いただくというのがスタイルなんですけど、八雲町くらいの規模であつたら、このように多分地域の方はこのような子どもの数、肌で感じてるんじゃないかと思うんですけど、まずはこのような客観的なものを見ていただいた中で、先ほど申しあげた学校運営協議会、あと地域の学校をどうしようって考える場でご議論をいただきながら、そして意見をお持ちの方々の意見をどうやって拾い上げていくかを考えていきたいと考えておりました。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） そしたらたとえば熊石地区みたく、たとえば実際の父兄たちが、たとえば部活動や友達づくりだとか、そういうことを考えて統廃合を親がもし望んできたりしたら検討に入るって感じなんですかね。

○教育長（土井寿彦君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） そのようだと思います。ただ熊石からスクールバスで例えばこちらに通うとなると難しい。

○委員（大久保建一君） そういう意味ではなくて、熊石は親のあれからなって一個になったでしょ。そういうふうみたく、八雲も親が望んだから東野とか落部とかが一緒になったりしていくのかなと思ったんだけども。

○教育長（土井寿彦君） まさにそのとおりだと思います。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） もうこれ教育長の言ったとおりだと思うんです。地域から声が上がらないと、なかなか行政側では手をつけられないってところなんだろうけど、結局地域感情に関わるところなので、やっぱりこれデータに基づいて地域としっかりとお話をする。これ、お話しただからすぐに統廃合するんじゃないって、こういう状況になるんじゃないって何年後かに統廃合っていうの明確に目標として示すってことは非常に大事だと思うんですね。僕は落部に住んでいて、これももう統廃合考えたほうがいいって昔から行ってきましたが、しっかりと行政側と示すってことも、これからは必要なことだと思うんですが、あとこれ施設の改修、大規模改修も含めて近々の予定ってあるんですけど。小学校中学校に関してはある程度ひと段落したんですけど、施設改修は。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） 施設の大規模改修については、今後、熊石小学校、中学校が令和10年ごろに想定されているものがございます。

○委員（関口正博君） 八雲町内ではないってこと。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） それでは暗く終わってしまいました、すみません。

ありがとうございました。

#### 【学校教育課職員退室】

○委員長（赤井睦美君） それでは今日出た案件でさらに検討するってことはないと思うので、これはこれで終わります。

文厚としては、残っているのが、私が思うに、委員会として視察調査について事務局からお願いします。

○議会事務局庶務係長（菊地恵梨花君） 本年度文厚の視察調査、道外の視察となっております。総務のほうと条件は同じく、東京よりも北の県で二泊三日を想定しているので、だいたいどの辺のところが良いとか、どういったものを視察したいとか、視察する時期、本州だったら、夏とかだとあまりにも暑かったら時期ずらすとか、そういったことを協議いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） 皆さん是非視察してみたいってところはありますか。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） 前は病院とか行ったことあるんですが、それぞれの地域の事情もあるから。さっきの教育でいったら義務教育学校行きましたし。

もしあれだったら私はぼやって考えているだけで絶対というのはないんですが、今回要支援の被災、避難所の義務化、というのが出てきましたよね。震災があった地域、東北ですが、実際どんな状況なのが一番いいのか分からないですよね。被災してみないと想像でしか言っていないから、福島とか行って見て、実際に何が本当に大変だったかとか、その避難の。全部だと総務と被るから、要支援ってことを頭に入れながら避難所の在り方を見たらどうかなってというのはあるんですが、皆さんの中でもっとももっとこういうのも大事だっていうのを出していただけたら。これいつまで出せばいいですか。

○議会事務局庶務係長（菊地恵梨花君） 何月に行くかによります。

○委員長（赤井睦美君） 4月から3月までの間ですよ。だけど7、8は非常に暑いから7、8、9はやめましょう。

○議長（千葉 隆君） 秋だよ。9月の定例会終わったあと。

○委員長（赤井睦美君） それくらいで。

○委員（大久保健一君） 何を見に行くって。

○委員長（赤井睦美君） 避難所。何がどんな避難所、避難の在り方が、もっとこういうふうになってくれたらよかったなって、いろいろあると思うんですけども、今回、福島をどうかなって思うんです、能登半島はまだまだ大変なので。能登半島の避難所を見たら本当に床に布団を敷いて寝てたけれども、台湾はすぐ次の日から体育館にテントが各家のテントが建てられてすごい差がはっきりしてるんだよね。ああいうところとか何が違うのか分からないですけども。そういうのを見てきて八雲町でもどうかと思います、ただ災害と言ったら総務になってしまうから、要支援ということでいったらどうかと思います。総務委員会は決まったんですか。

○議会事務局長（野口義人君） まだ。

○委員長（赤井睦美君） 合同でもいいんですか。合同で災害対策で。

○委員（関口正博君） ちょっといいですか。

○委員長（赤井睦美君） はい。

○委員（関口正博君） 先輩たちに怒られるのかもしれないけれども、研修って必要なのかなって。研修目的があって、活かされるならいいんだけど、昨今すごく議員研修に対しての風当たりは強いだらうなって気がして。それが、今までの時代とはちょっと研修の在り方そのものも、ちょっと変わってきてるだろうし、なんかかんたに行かなきゃいけないのかなって、目的があつたらいいんだけどもって気はするんですね。だから、できたら総務と文庫被っている議員も多いので、今委員長がおっしゃったように統合して、いくらかでもお金を浮かせるとか、そんな考え方も必要じゃないのかなって思うんだけど、どうなんでしょうか。なんかかんたに行かなきゃいけないのかなって気がする。

○委員長（赤井睦美君） 是非、災害で、合同で行けたらいいですね。

○議長（千葉 隆君） でも、庁舎やるときに庁舎見に行って、やっぱり庁舎特別委員会を作ったときに、やっぱりソフトの部分、かなり、やっぱりワンストップサービスみたいな部分を見てきて、結構それを最終的にどうなるかはまだ分からないけれども、かなりいいところとか、住民目線で指摘した部分があるので、行かないと分からないってものを行っ

たほうがいいと思う。実際にネットでき、行けば違う側面があるんだよね。だからやっぱり今調査項目とかで一緒にやるのも、一緒に行くのもいいんだけど、テーマだよね。福島原発で避難所っていうかたちと災害とまた。

○委員長（赤井睦美君） 福島じゃなくても能登半島には行けないから、東北地震でいいと思いますが、宮城県でもどこでもいいんですけども。ちょっと総務に相談して。

○議会事務局庶務係長（菊地恵梨花君） わかりました。

○議長（千葉 隆君） 総務はどこに行くって。

○委員（倉地清子君） まだ決まってない。

○議会事務局長（野口義人君） ウイスキーとかね。

○委員長（赤井睦美君） 一回行ってきたじゃないですか。

○議長（千葉 隆君） それはワインだもん。

○委員（関口正博君） あと怒られるかもしれないけれども、サーモンの陸上施設、本州のほうで始まってます。

○委員（大久保健一君） それこそ総務だべ。

○委員（関口正博君） だけど、その規模感とサーモン養殖そのものがどういうふうに捉えられてるかって知る上では、あまりうまくいってないって噂も聞くんです、陸上養殖自体も。だから、サーモン養殖そのものを知るために、そういうものもあってもいいのかなって気がするけれども。千葉かどこかの、後は九州とかでやってるから、あと津、三重県、ちょっとのらないところもあるんだけど、千葉でどこかで大規模なやってた気がするんだけども。

○委員（黒島竹満君） 山の中でやっているところもある。

○委員（関口正博君） あと富山のほうでも一つ始まってます。

○議長（千葉 隆君） でも設備投資すごいもんね。

○委員（関口正博君） 何十億。

○委員長（赤井睦美君） それは自治体がやってるんですか。

○議長（千葉 隆君） 企業。スウェーデンのノウハウとかを持ってきてるから。

○委員（関口正博君） だから、あれは企業がやるんだけど、自治体は土地提供や、だけど固定資産税でとんでもない収入があるってところで、ちょっとそこは八雲とは別に違うんだけども。

○委員長（赤井睦美君） あと皆さんいい案がありましたらお願いします。

○議長（千葉 隆君） 今言っていた複式とか。結局、統廃合しなかったら複式になるでしょ。でも統廃合してもおそらく複式になる時代が来るんだよね、それで複式の利点とかさ、特色ある、そういうやっているところとかある。

○委員長（赤井睦美君） だけど複式にしても少なすぎる複式。

○委員（佐藤智子君） 私の学校 18 名でしたよ。

○委員長（赤井睦美君） だって浜松小学校なんて入学生 0 で在校生 5 人ですから。複式どころじゃない何もできない状況だから。

○委員（大久保健一君） だけど町から何にも働きかけないのもどうなのかなって。

○委員長（赤井睦美君） 地域の反対を恐れてるんじゃないですか。

○委員（大久保健一君） だけど集団生活も何も学べないわけでしょ、学校。本来学校で学ぶべきことが学べないのってどうなのかなって。

○議長（千葉 隆君） 体育やってたら、団体スポーツやったことないって。

○委員長（赤井睦美君） だから山崎小学校最後6年生二人だったでしょ、あの人があけびの中学校に入って、大勢の中でいられなくて少し不登校になった。

○委員（大久保健一君） なるよね、集団生活してないんだから。

○議長（千葉 隆君） だいたい複式やっても兄弟で複式だから家にいるのと同じみたいな感じ。他人と話すとかさ、議論するとかそういう感じにならないもんね、実際に。5人のうち3人兄弟だとか。

○委員（大久保健一君） 子ども達可哀想。

○議長（千葉 隆君） でもやっぱり地域はさ、学校ないと駄目だって。

○委員（関口正博君） 今、昔ほどそういう意識はないと思う。

○議長（千葉 隆君） でも、そういうのを意識するから、なかなか踏み出せないんだと思うけれども、でも本当にその子ども達のことを考えたら、いつまでもそれをそういう姿勢でいいのかって部分は考えていかないと。

○委員（関口正博君） 異性を好きって気持ちが分からない。

○委員（大久保健一君） 恋愛経験もないって。

○委員（関口正博君） それってすごく大きいんじゃない。

○議長（千葉 隆君） それも大きいし、やっぱり競争というかさ、そういう比較するとかさ、そういうのが養われなと思う。

○委員（関口正博君） 選択肢がないっていうのが、いろんなことで、異性も部活も選択肢がないっていうのが何ほど不幸なことかって、我々ちゃんとそこら辺わからないと、子どもの立場に立って、地域のエゴばかりではなくて。

○議長（千葉 隆君） それがその中で育って、中学校も同じだったら高校のときにぶつかるし、中学校でぶつかるというか、そうしたらその1年間、今度ハンデになってしまうからさ。実際環境でき、左右される部分すごいあると思うんだよね。

○委員（関口正博君） 5人くらい小学校のときに好きな子いたもん。

○委員（大久保健一君） それ関係ない話。

○委員（倉地清子君） 修学旅行は合同でしたっけ。

○委員（佐藤智子君） 合同です。複式交換会とか。

○委員長（赤井睦美君） 年に何回か一緒に授業やったりするから、全く知らないってことはないけれども。

○委員（斎藤 實君） だけどPTAの皆さんと行政が話したっておかしくないよね。

○委員長（赤井睦美君） したほうがいい。

○委員（佐藤智子君） 校長とかからも声が上がるものなの。

○議長（千葉 隆君） 学校は先生たちと校長になりたい人がいたら、学校多いほうがいいに決まってるし、教頭も多いほうがいいに決まってるし、今中間の主任も作ろうとしてるんですよ。新しく階級。だからそういう視点より、子どもの視点でこの少子化の中でいい教育環境だとか社会提供できるような学校生活を送れるかって部分考えていかないと。

（何か言う声あり）

○議長（千葉 隆君） 複式もそうだけど、やっぱりこの規模でもう一つしか二つしかないもんね、小学校。それ今多いからね。あと伝統ある、山越の小学校みたいに八雲町の開庁記念より120何年、山越。150年か。

○委員長（赤井睦美君） そしたら今ので原案を出させていただきます。それで検討していただくのでよろしいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） ではそういうことで。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 副委員長から提案があります。

○委員（佐藤智子君） 貰ってくれるだけでいいです。

○委員（大久保健一君） まだ諦めてないの。

○委員（佐藤智子君） 諦めるわけないでしょ。これからみんな年取って必要になるのに。

○委員（大久保健一君） だから、みんながみんな必要があるって、きりがいいんじゃないのって。

○委員（佐藤智子君） みんながみんな必要ではないと思うけど。以上です。

○委員長（赤井睦美君） 検討してください。それでは次回。

○議会事務局庶務係長（菊地恵梨花君） 次回5月16日木曜日の午前10時から予定しておりますのでよろしくお願いたします。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） お願いします。それでは、これで終わります。

[ 閉会 午後0時10分 ]